

# 決算報告

令和3年度の一般会計などの決算が、備前市議会の11月定例会で認定されました。皆さんに納めていただいた税金や国・県の補助金などが、どのように使われたかお知らせします。

問 財政課  
(☎64-1810)

## 一般会計

一般会計は、歳入**213億1,112万円**に対し、歳出は**202億3,629万円**で、翌年度へ繰り越す事業の財源**2億2,028万円**を差し引くと**8億5,455万円**の**黒字決算**となりました。このうち、4億5,000万円は、財政調整基金に積み立てました。

## 特別会計

特別会計（11会計）では、歳入**94億7,610万円**に対し、歳出**89億1,107万円**で、**5億6,503万円**の**黒字決算**となりました。

## 特別会計・公営企業会計

(単位:万円)

会計別		歳入	歳出	差引	
特別会計	国民健康保険事業	420,997	402,091	18,906	
	土地取得事業	6,077	5,576	501	
	三石財産区管理事業	598	297	301	
	三国地区財産区管理事業	1,103	293	810	
	浄化槽整備事業	2,186	1,921	265	
	後期高齢者医療事業	60,181	59,751	430	
	介護保険事業	433,910	414,186	19,724	
	飲料水供給事業	3,795	2,737	1,058	
	宅地造成分譲事業	983	71	912	
	駐車場事業	4,362	3,533	829	
	企業用地造成事業	13,417	650	12,767	
特別会計の合計		947,610	891,107	56,503	
企業会計	水道事業	収益的収支	74,108	77,835	△ 3,727
	水道事業	資本的収支	2,972	55,620	△ 52,648
	下水道事業	収益的収支	186,169	200,462	△ 14,293
	下水道事業	資本的収支	119,475	192,614	△ 73,139
病院事業	病院事業	収益的収支	528,373	491,263	37,110
	病院事業	資本的収支	14,639	33,814	△ 19,175

水道事業会計の資本的収支の不足額5億2,648万円は、当年度分消費税資本的収支調整額と過年度分損益勘定留保資金で補填しました。

下水道事業会計の資本的収支の不足額7億3,139万円は、当年度分消費税資本的収支調整額と過年度分損益勘定留保資金で補填しました。

病院事業会計の資本的収支の不足額1億9,175万円は、過年度分損益勘定留保資金で補填しました。

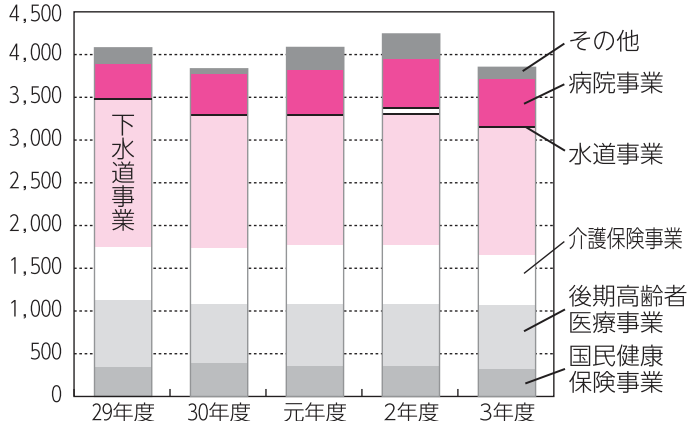
※特別会計は、各内訳を表示単位で四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

## 特別会計・公営企業会計への繰出金の状況

### 【繰出金の推移】

(単位:百万円)

(参考:地方財政状況調査)

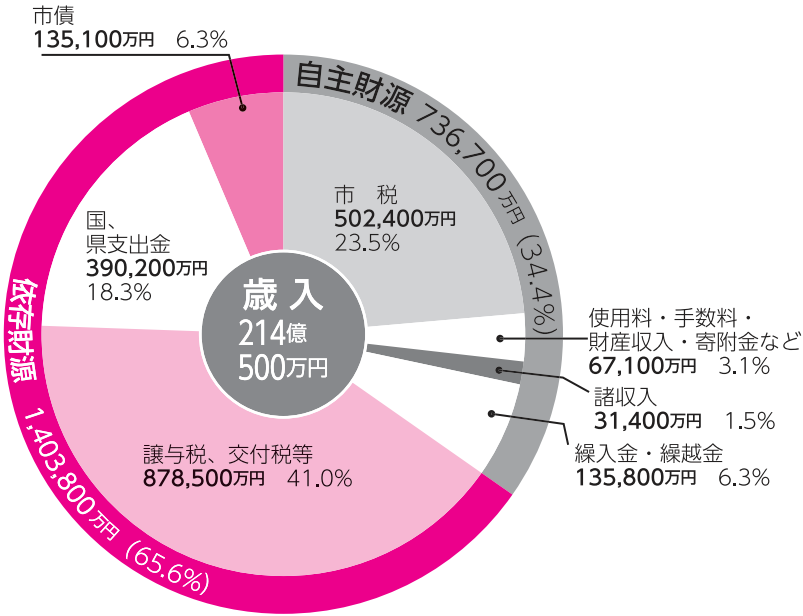


高齢者の増加により、介護保険事業と後期高齢者医療事業への繰出金が高額なまま推移しています。

また、下水道事業への繰出金は、減少傾向にあります。料金収入で補うことができない雨水処理の経費などへの繰り出しを行っているため高額で推移しており、令和3年度は約15億円を繰り出しました。

## 普通会計とは…

一般会計と特別会計の一部を合わせて、自治体間で比較できるように共通の基準で考えられた会計の単位。  
備前市では、一般会計、特別会計（土地取得事業、飲料水供給事業、駐車場事業）。



## 普通会計 歳入 決算額

**214億500万円**  
(前年度比 7.2% マイナス)

前年度より7.2%減少し、自主財源の歳入全体に占める割合は34.4%と前年度から5.7ポイント増加しました。自主財源では、新型コロナウイルスの影響により、一時減収となっていた市税の回復などが増収の要因となりました。また、依存財源では、国税の増収などに伴い、地方交付税が大幅に増加した一方、コロナ対策のための国・県支出金が減少しました。

市民1人当たりには換算すると…

### 市民からの収入

195,900円



### 県からの収入

27,439円



### 国からの収入

364,753円



### 市債 (借入金)

41,774円



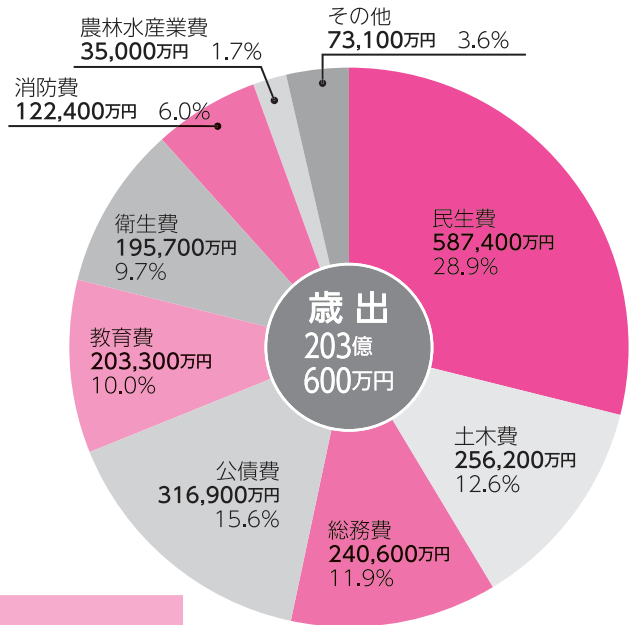
1人当たりの歳入合計

**661,702円**

## 普通会計 歳出 決算額

**203億600万円**  
(前年度比 9.5% マイナス)

前年度より9.5%減少しました。特別定額給付金が令和2年度をもって終了したことに伴い、総務費が14.2%減少、三石地区公民館・三石総合支所整備に係る事業が完了したことからの、教育費が前年比29.3%減少、コロナ禍における商業団体への支援事業費の縮小により、その他の費目が前年比35.0%減少しています。



市民1人当たりには換算すると…

### 民生費

181,600円



### 土木費

79,211円



### 衛生費

60,495円



### 消防費

37,845円



### 総務費

74,369円



### 教育費

62,858円



### 農林水産業費

10,814円



### 公債費

97,951円



1人当たりの歳出合計

**627,736円**

※市民1人当たりの金額は、令和4年3月31日現在の住民基本台帳人口(32,348人)で割ったものです。

## 地方消費税交付金（社会保障財源化分）の充当事業

※消費税率の引き上げに伴う増収分は、すべて社会保障の充実に充てられます。

・地方消費税交付金 83,692万円（うち社会保障財源化分 44,285万円）

（単位：万円）

事業名等	事業費	財源内訳				
		特定財源			一般財源	
		国庫支出金	県支出金	その他	うち地方消費税交付金（社会保障財源化分）	
障がい者やひとり親家庭に対するもの（社会福祉：7事業）	142,189	76,797	24,016	2,984	193,948	44,285
特別会計（国保、介護、後期高齢）への繰出金等（社会保険：4事業）	172,431	6,041	24,606	0		
子ども、妊婦、精神保健に対するもの（保健衛生：4事業）	16,911	340	1,344	1,455		
合計	331,531	83,178	49,966	4,439	193,948	44,285

## 都市計画税の充当事業

・都市計画税 17,746万円

（単位：万円）

事業名等	事業費	財源内訳		
		特定財源	一般財源	
			都市計画税	その他
公営企業会計における都市計画事業（公共下水道事業）に対する繰出し	127,316	0	17,746	109,570
都市計画事業関連の市債の返済	1	0	0	1
合計	127,317	0	17,746	109,571

## 備前市の貯金額

### 基金（貯金）の総額

112億7,200万円

（前年度比 2億700万円 マイナス）

市民1人当たり  
34万8,000円

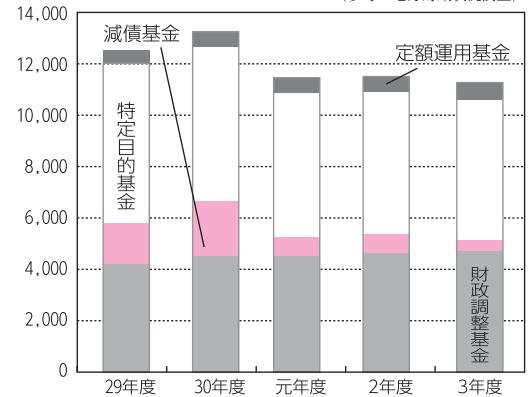
いざという時の災害対応や老朽化した公共施設を更新するための備えとして積立を行っています。

令和3年度は減債基金を取り崩して庁舎建設のため発行した市債の一部を繰り上げて返済したことなどにより、基金の残高は減少しました。

### 【基金残高の推移】

（単位：百万円）

（参考：地方財政状況調査）



## 備前市の借金額

### 市債（借金）の総額

353億800万円

（前年度比 31億7,100万円 マイナス）

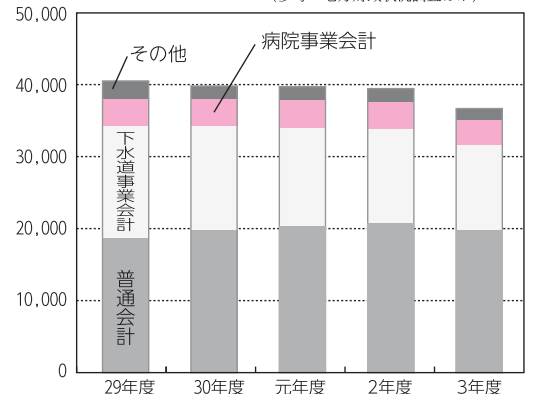
市民1人当たり  
109万2,000円

普通会計では、将来の負担を軽減するために基金を取崩して借金を繰り上げて返済したことから、残高が減少しました。また、下水道事業会計についても残高は減少しています。

### 【市債残高の推移】

（単位：百万円）

（参考：地方財政状況調査ほか）



## 令和3年度 主な事業

### 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち (教育・文化)

- ・児童生徒1人1台のタブレット端末を活用したオンライン学習環境整備(小・中)…………… 1,203万円
- ・給食費の補助(小・中)…………… 2,937万円
- ・外国語指導助手(ALT)の全校配置(小・中)…………… 8,421万円
- ・私立保育園運営費補助事業…………… 6,776万円
- ・地域学校協働本部、備前まなび塾+…………… 994万円

### 地域で支え合う持続可能なまち (交流・コミュニティ)

- ・地域おこし協力隊導入事業…………… 4,641万円
- ・自治会運営支援事業…………… 1,597万円

### 誰もがいつまでも安心して暮らせるまち (健康・福祉)

- ・新型コロナウイルスワクチン接種事業…………… 2億8,439万円
- ・健康ポイント事業…………… 2,094万円
- ・放課後児童クラブ事業…………… 8,563万円
- ・障がいのある人へのサービス給付… 8億6,075万円
- ・妊婦乳幼児の健診など…………… 4,934万円
- ・地域子育て支援拠点事業…………… 8,771万円
- ・高校生までの医療費窓口負担の無償化…………… 1億1,159万円

### 地域の活力を生む産業を振興させるまち (産業経済・都市計画)

- ・米生産農家経営継続補助金…………… 1,197万円
- ・商業団体への支援(商店リフォーム支援など)…………… 1億2,872万円
- ・企業立地促進事業…………… 1,218万円
- ・移住定住推進事業…………… 1億368万円

### 安全で快適な生活が送れるまち (安全・生活基盤)

- ・道路新設改良事業…………… 2億4,220万円
- ・デジタル防災行政無線整備…………… 4億8,005万円

### 環境を大切にして未来につなぐまち (生活環境)

- ・公共交通維持事業…………… 1億8,698万円
- ・ごみ処理施設管理事業…………… 1,320万円

### その他の主な事業

- ・番組制作事業…………… 3,131万円
- ・ふるさと納税推進事業…………… 1億2,446万円
- ・旧アルファビゼン跡地活用事業…………… 2,129万円

## 今後の財政の見通し

歳入の柱となる市税は、新型コロナウイルス感染症の影響や世界の経済情勢に左右されることから、先行きは不透明となっています。また、地方交付税についても、国税の歳入状況により交付額が変動するため、同じく先行きは不透明です。一方、歳出面では、少子化対策や高齢化に伴う社会保障等の増加が続き、市の財政は厳しさを増しています。このような中、公共施設の統廃合や必要な施設の長寿命化など必要な事業を進めるため、事務事業全体についてさらなる見直しを行うとともに、事業そのものの選択と集中を徹底していきます。また、「備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、子育て支援、教育、定住促進などの人口減少対策に重点を置きつつ、アフターコロナと市の明るい将来を見据え、最小の経費で最大の効果を挙げることを常に意識し、持続可能な財政運営を目指します。